令和５年度　御殿場市議会 経済環境委員会　行政視察報告書

１．日程　　　令和５年１０月１９日（木）

２．視察先及び視察事項

(1) 神奈川県厚木市

〇厚木市第２次スポーツ推進計画について

(2) 神奈川県秦野市

〇秦野名水の活用戦略について

３．参加者

委員長	林　　義浩		
副委員長	小林　恵美子		
委員	永井　誠一	辻川　公子	杉山　護
	黒澤　佳壽子	髙橋　利典	
当局	南　　美幸	（環境市民部長）	
	鎌野　晃	（産業スポーツ部長）	
事務局	桐生　守	（主幹）	
	浅子　菜美	（副主任）	

４．視察先対応者

(1) 神奈川県厚木市

社会教育部長　　　　　長沼　様

スポーツ推進課長　　　田坂　様　ほか

(2) 秦野名水の活用戦略について

環境共生課参事兼課長　谷　様

環境共生課課長代理　　室田　様　ほか

５．視察の内容

■『厚木市第２次スポーツ推進計画について』

日時：令和５年１０月１９日（木）　１０：００～１２：００

場所：厚木市役所本庁舎　及び　ぼうさいの丘公園（スケートボード場）

目　的

厚木市は、「あつぎスポーツ王国」を実現するために第２次スポーツ推進計画を策定。本市のスポーツ行政の参考とする。

視察先の概要

神奈川県中央部に位置し、６市２町１村と隣接。東京都心から約５０㎞圏にあり、首都圏の業務核都市として都市機能が整備。東名高速道や小田原厚木道路などの自動車交通の結節点にあり、研究開発施設や物流施設が集積している。

人口：２２３，６９５人　議員定数：２８人【R5.4.1時点】

令和５年度一般会計当初予算額：９２３億円

内　容

厚木市第２次スポーツ推進計画は、基本理念を「スポーツで心がふれあう都市（まち）あつぎ　～スポーツ王国を目指して～　」とし、この計画を６０施策の概要から市民のスポーツ活動を推進するもの。

スポーツ推進を、「する・みる」「支える」「広げる」に分けてある。

子どもや障がい者をはじめ初心者からトップアスリート育成まで含めた推進計画となっている。

①「する・みる」は、地域によるスポーツ活動の推進や、健康・体力づくりの推進や子どものスポーツ活動の推進、障がい者スポーツの推進などにより、スポーツ活動の機会の提供を実施している。

②「支える」は、スポーツ協会、各地区のスポーツ推進委員、スポーツ少年団、スポーツボランティアなどスポーツ関係団体等は支える側で、大会運営・企画・計画、新規スポーツの提案などを実施している。

・あつぎスポーツアカデミーの推進

・スポーツボランティアの育成・活用

・スポーツ医・科学の導入

③「広げる」は、スポーツ施設の充実を図っている。

・公民館への体育施設併設や、ハイキングコースの設置、企業・大学施設の活用

・ソフト面ではスポーツ関連情報総合ポータルサイトをはじめとする情報発信

・スポーツ医・科学の導入により、けがをしにくい取り組み方などの講座開催を実施

これらの取り組みは、基本目標の数値化で管理している。

その目標値は、成人の週１回以上のスポーツ実施率を令和元年４０．６％から令和８年６５％以上とし、国民体育大会の神奈川県代表選手のうち、厚木市から選出される選手の割合を令和元年４．０％から令和８年１０％以上とし、公共スポーツ利用者数を令和元年約１５３万人から令和８年１８０万人となっている。

平成１９年に厚木市スポーツ推進計画を策定して以来、確実にスポーツ参加率は上昇している。

具体例

・スポーツ医科学セミナーの実績では、「スポーツ傷害の予防と筋力トレーニング」「初心者向けのテーピング法」「けがをしないで楽しく走ろう。ランニングに潜む危険性」など年に１～２回実施している。

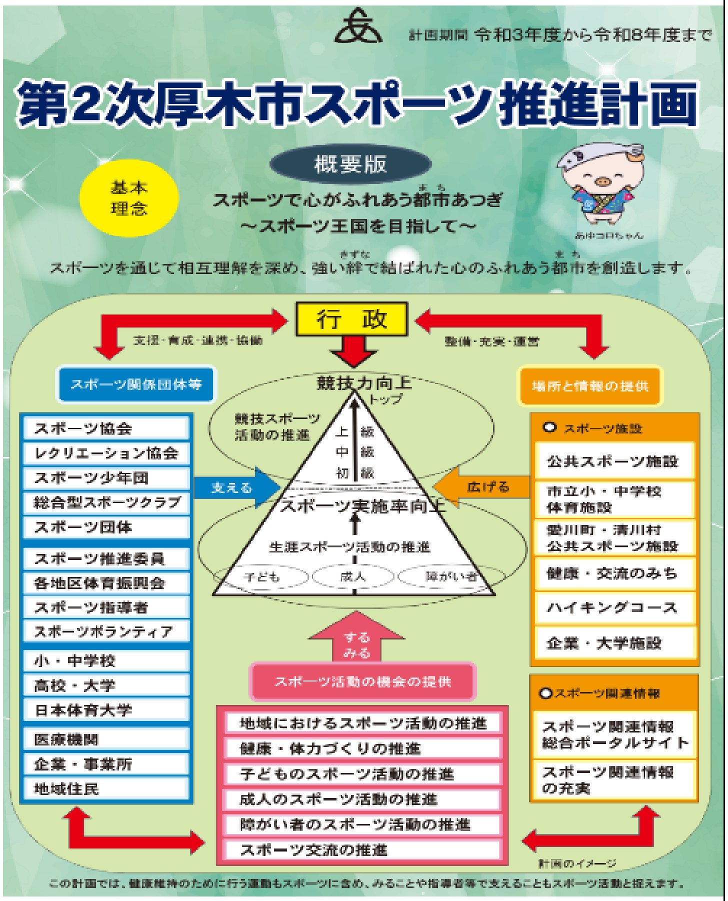
・ぼうさいの丘公園にスケートボード場を開設。市民からの要望で、騒音が問題にならない住宅地から離れた場所を選んだ。

・「スポーツなじみＤＡＹ」を年３回実施し、ボッチャ・モルック・Ｔボール野球・グランドゴルフなど新しいスポーツを紹介している。

・スポーツボランティアは登録制になっており、登録者は１９名。その他、大会ごとにボランティアを募集している。

・あつぎマラソン、駅伝など大きな大会を招致している。

・「いつでも・だれでも・とこでも・いつまでも」が合言葉



出典：厚木市

考　察

①広い裾野と超プロまで
　子どもや初心者から超プロまで裾野を広く捉え、スポーツ振興の底上げをサポートしていることを評価する。
②わかりやすいスローガン
　「あつぎスポーツ王国」が知れ渡っているようで、公民館での体育館利用がとても多く、地域コミュニティからスポーツへの取組が多いため、市民参加率が高い。わかりやすいスローガンを市民から盛り上がるようなフレーズを検討したい。
③新しいスポーツの提案
　常に新しいスポーツを提案し、参加率を上げる姿勢を評価する。
④スポーツ医・科学の導入
　スポーツ推進審議会委員の医師などから指導・助言を受けたり、セミナーを開催するなどは画期的であると評価する。
⑤子どものスポーツ活動
　学校、公園など、身近なところで外遊びの推奨や自然を活かした遊び体験の機会の提供やスポーツ活動の推奨などの実現により子どもの体力向上のみならず地域愛、郷土愛が育まれると考える。
⑥部活動配置事業の改善や充実
　教育の長時間勤務の改善や技術的な指導及び生徒引率などが可能な部活指導員の配置は本市も検討するべきである。
⑦合言葉
　ウォーキングなどをはじめ、「いつでも・だれでも・どこでも・いつまでも」を合言葉に、スポーツを気軽にできるように発信することも重要と考える。（ウォーキングも立派なスポーツ）
その他
　本市はグリーンツーリズムとスポーツツーリズムの連携を検討中である。

ぼうさいの丘公園（スケートボード場）にて

■『秦野名水戦略について』

日時：令和５年１０月１９日（木）　１４：００～１５：３０

場所：秦野市役所本庁舎　及び　兵庫の泉（湧水スポット）

目　的

「名水百選」に選ばれ、おいしさが素晴らしい名水日本一になった秦野名水。本市も富士山の伏流水があることから、水についての戦略を学ぶ。

視察先の概要

神奈川県県央西部に位置し、市域北側を丹沢山塊、南側を渋沢丘陵に囲まれ、神奈川県内で唯一典型的な盆地を形成。東京、横浜への通勤圏内であることからベッドタウン化し、人口が増加。「秦野テクノパーク構想」を掲げ企業誘致を進めている。 人口：１５９，３１５人　議員定数：２４人【R5.4.1時点】 令和５年度一般会計当初予算額：５５５億７千万円

内　容

①「秦野名水の活用戦略」を令和２年１２月に制定 ・秦野名水のブランド力向上を目的に目標（指標）を策定 ・市の水道水を名水と指定 ・ブランド化を図るため「秦野名水」のロゴマークを作成。承認件数は令和４年度目標件数１３０件を上回り、１５１件となる。 例　実朝漬け・お弁当・豆腐や特産品のＰＲなどにも使用 ・秦野ブランド（水）認証品売上額令和４年度目標値 4,500 万円のところ約 3,250 万円 ※水道水をボトルドウオーターとして販売　　※ロゴマークには使用基準がある。 ②「秦野名水名人講」 ・秦野名水名人を認定 ・「秦野名水さんぽ」における補助説明 ・「スッテップアップ講座によるスキルアップ」 ・「モニターツアー」「名人会議」での意見交換 ・令和４年度目標値２０名のところ３４名 ・秦野名水めぐりコース令和４年度目標実績とも２コース ・森林セラピー体験イベント回数令和４年度目標１２回のところ２４回 ・幼小中生に対し、はだのエコスクールとして「名水紙芝居」「利き水」などを実施 ・名水マップ作製

③地下水保全条例
・条例では地下水を市民共有の財産（公水）として市民事業者、市役所が協同で保全活動に当たっている。

課題

・地域特性を活かしたストーリーを与えることが重要
・費用対効果を考慮しながら湧水施設の整備を検討
・認知度を上げるため、ＳＮＳなどの活用を広めていく必要がある。

としていた。

その後、秦野市内にある「兵庫の泉」に実際に出向き見学及び地元の人と話をした。

全国１位に選ばれた「おいしい秦野の水」

「秦野の名水」ロゴ

出典：秦野市

考　察

本市の名水利活用の戦略的施策は不十分である。名水の利活用は環境・観光・地域の活性化・経済面と多岐にわたる。名水活用は本市にメリットをもたらすと確信する。「使う・守る・育てる・伝える」を活発に行うことは、本市でも水を活かした地域活性化になると考える。

①地図の作成
御殿場市にはたくさんの伏流水・湧水があるため地図の作成を検討したい。

②ストーリーを文章化
各地区の伏流水・湧水にまつわる物語・昔話・伝説などを整理しストーリー化を検討したい（各地区の伏流水・湧水の成分表表示）

③環境学習事業の取り入れ
エコスクールによる幼保小中学校等で水について考える機会の創出を検討したい。

④商標登録
富士山伏流水登録商標「表富士伏流水」や「御殿場名水（水道水)」など、ロゴを含めた登録を検討したい。
（使用にあたっての基準や使用料の規定）
⑤地下水の保全
地下水保全のため、乱開発の防止や外国籍の取得防止などを検討したい。
⑥名人認定
伏流水・湧水・名水名人の認定を検討したい。
⑦販売
現在は、防災備蓄用でしか製造していないが、ボトルドウオーターの販売（小売り・卸）や名水を使った商品の開発を検討したい。

兵庫の泉